

## 2023年6月 JICA 月次レポート

### 生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

#### <活動状況>

1. ラジオトークショーの実施
2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送
3. 対象校におけるモニタリングの実施
4. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）
5. 第5回オンライン会議の準備

#### 1. ラジオトークショーの実施

ムベンデ県では6月19日にチバリンガ準郡のLuna FMより1時間のラジオトークショーを実施し、十代の妊娠や早婚を防ぐためには、性と生殖に関する正しい情報をもって女子生徒をサポートする必要があることや、その問題に対して宗教指導者など様々な関係者たちがそれぞれに持つ役割を果たしていくように呼びかけた。



性と生殖に関して啓発を行うプロジェクトオフィサー

ワキソ県では6月29日19時～20時にTiger FMより1時間のトークショーを実施した。SORAK代表は事業の概要やこれまでの成果を紹介し、費用対効果が高く環境にも優しい布ナプキンを活用するように奨励した。また、保護者や関係者に対し、情報量の乏しさゆえに引き起こされる十代の妊娠問題を回避するため、性と生殖に関する的確な情報を彼女らに共有していくように呼びかけた。



性と生殖について啓発を行う SORAK 代表

ブタンバラ県では 6 月 17 日に Voice of Butende、Voice of Kikambwe よりそれぞれ 1 時間のラジオトークショーを実施し、主に「体の変化や生殖、月経についての教育は何歳からが適切か」について議論した。チームリーダーは、初潮を迎える年齢が早ければ 8 歳未満、遅ければ 16 歳以上であるように、思春期の変化を感じ始める年代の差について地域住民に説明し、保護者や教員へも子どもの成長を気にかけるように呼びかけた。Atala 氏は子どもが自信を育み、悩みを打ち明けられるようになるには、できる限りフレンドリーな環境で子ども達と接する必要があることを訴えた。周囲の大人が話題に対し内向きで情報提供しないために、多くの女子生徒は胸が大きくなったり、陰毛が生えたりするなど身体の変化が現れる際に孤独や恐怖を感じてしまうのだと Voice of Butende の司会者は指摘した。また Atala 氏は、妊娠や退学などを引き起こす無責任な性的行為は身体や生殖について学び、認識することで減少していきだろうと続けた。

## 2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送

月経時の衛生管理、女子生徒の教育、生理用布ナプキンに関するラジオスポットメッセージを以下の通り放送した。

- ムベンデ県 : Luna FM (1 日 6 回)
- ワキソ県 : Voice Kiryagonja (1 日 10 回)
- ブタンバラ県 : Voice of Butende (30 回)、Voice of Kikambwe (21 回)

## 3. 対象校においてモニタリングの実施

### ムベンデ県

6 月 21 日にプロジェクトオフィサーは対象校全 10 校を対象にモニタリングを実施し、布ナプキン作製や月経時の衛生管理・ジェンダー啓発カウンセリングなどの活動の進捗を調査した。

- 各校で実施しているカウンセリングの結果、月経時の衛生管理とジェンダーについての生徒の理解が深まった。

- 男子生徒、女子生徒の両方が布ナプキンの作り方を学んだ。
- 布ナプキンの作製トレーニングにおいて保護者の協力が得られている。Gwanika, Dyangoma, Kasasa 等の初等学校ではナプキン作製に必要な布の購入費用として保護者から 1000 シリングが寄付された。更に Gwanika 初等学校では保護者の 1 人がミシン一台を寄付した。
- 月経中の対処方法を学んだことで、特に女子生徒の衛生状況が改善した。
- 生徒だけでなく教員も技術を習得することができた。St Marys' Kiyita 初等学校では、テーラーでもある女性教員が別の教員にミシンの使い方を教え、今では一緒に生徒にナプキン作製のトレーニングをしている。

月経衛生クラブのメンバーが布ナプキン作成を学んでいる様子

		
St Mary's Gwanika 初等学校	Kasasa 初等学校	St.Mary's Kiyita 初等学校
		
Kabowa 初等学校	Christ The King 初等学校	CAWODISA 初等学校
		
Dyangoma 初等学校	Ikula 初等学校	Kasaana 初等学校
		
Katega 初等学校		

## ワキソ県

6月29日～30日にモニタリングを実施した。学校の様々な側面を調査するモニタリングツール（指標）を用いて事業の進捗状況を調査し、洗面所のプライバシーの有無や衛生状況、水の入手状況、備品状況など、それぞれの項目に設置した指標を用いて評価をした。啓発活動もまた指標の対象であり、月経衛生クラブのメンバーが持つ責任、活動で取り上げた内容などを評価した。

以下は結果の一部である。

- Lwadda 初等学校の洗面所には屋根が取り付けられ、壁にひびが入った洗面所から移行することができた。今後の課題は学校が抱える1000人以上の生徒が混雑することなく洗面所を使用できるように、より多くの施設を確保することである。
- Ssanga 初等学校の保護者がナプキン作製の材料を購入してくれたことなど、月経中の女子生徒への支援において保護者から良い反応があった。
- 生徒だけでなく教員も技術を習得することができた。Kitungwa 初等学校では、テーラーでもある女性教員が別の教員にミシンの使い方を教え、今では一緒にナプキン作製のトレーニングをできるようになった。
- 生徒たちは月経時の衛生管理の課題などについてこれまで以上に自由に教員と会話をすることができるようになった。
- Kanyange Mixed 初等学校、Manganjo UMEA 初等学校の生徒たちは他校との学び合い交流会を通して経験を共有し、教員や自分たちの活動に自信を持つようになった。また、今後も同様の交流会の実施を期待している。
- Kitungwa 初等学校の新しい校長は、布ナプキン作製をはじめとする活動の対象に男子生徒も含まれていることを知り、当活動を喜んで賛同してくれた。
- 多くの生徒が破れた制服を直すことにもミシンを活用できていた。

		
ミシンで布ナプキンを作製する男子生徒 (Kitungwa 初等学校)	ミシンを使用している様子 (Kitungwa 初等学校)	ミシンの使用方法を学ぶ生徒たち (Kitungwa 初等学校)
		
使用可能となったナプキンを見せている男性教員 (Ssanga 初等学校)	完成したナプキンと作製に必要な材料 (Ssanga 初等学校)	月経時の衛生管理クラブの部員 (Ssanga 初等学校)

		
<p>保護者が寄付してくれた綿生地 (Kitungwa 初等学校)</p>	<p>ミシンで作ったナプキンと手縫いで 作ったナプキン (Ssayi Bright 初等学校)</p>	<p>手縫いからミシンへ変わり改善した ナプキン (Ssayi Bright 初等学 校)</p>
		
<p>月経時の衛生管理クラブのメンバー (Ssayi Bright 初等学校)</p>	<p>月経時の衛生管理クラブのメンバ ー (Maganjo UMEA 初等学 校)</p>	<p>月経時の衛生管理クラブのメンバ ーへのインタビュー (Jinja Karoli 初 等学校)</p>
		
<p>月経時の衛生管理クラブのメンバー (Kanyange Mixed 初等学校)</p>	<p>月経時の衛生管理クラブのメンバ ーとの交流中の様子 (Kanyange Mixed 初等学 校)</p>	<p>プロジェクトオフィサーと女性教員 (Jinja Karoli 初等学校)</p>
		
<p>プロジェクトオフィサーと新しい校長 (Kitungwa C/U 初等学校)</p>	<p>女性教員、月経時の衛生管理ク ラブの部長、プロジェクトオフィサー (Lwadda 初等学校)</p>	<p>男子生徒へのインタビュー (Lwadda C/U 初等学校)</p>

## ブタンバラ県

6月15日には4校、(Butende、Butalunga、Kiwala、Lawamasaka) 6月16日には3校 (Kayenje、Ntolomwe、Bule) 6月17日には3校 (Nkokoma、Nawango and Kitagobwa) を視察訪問し、モニタリングを実施した。

### 生徒数

- 学校ごとの平均在学者数は379名であり、そのうち4年生から7年生までの女子生徒は124名。
- Kitagobwa、Bule、Nawango 初等学校では生徒数が減少傾向にあった。特に転校が多かった。Kitagobwa 初等学校ではトイレが崩壊したことも関係があるのではないかと女性教員が説明してくれた。
- 転校していった生徒の代わりとなる月経時の衛生管理クラブの新メンバーを選抜した。

### 洗面所のプライバシー状況

使用不可となっていた Kitagobwa 初等学校を除いて、全ての対象校のトイレにドアと鍵を取り付けた。うち半数の学校の洗面所はまだ屋根がないが、プライバシー状況においては特に問題がなかった。

崩壊した kitagobwa 初等学校のトイレには洗面所も併設されており、危険を避けるべく生徒たちはトイレ及び洗面所の使用が禁止されていたが、代わりに男子トイレを使用していた。

### 洗面施設の衛生状況

Kitagobwa、Bule 初等学校を除く8校のトイレは清潔な環境が保たれており、Nkokoma 初等学校の女子生徒によると以前よりも快適に施設を利用できるようになった。また、女性教員の一人はUTI感染症が大幅に減少したことを報告した。

Bule、Kitagobwa、Ntolomwe 初等学校の3校では水の確保がいまだに課題として残っている。学校敷地内に水源がなく、少し距離のあるコミュニティの井戸まで水汲みに行かなければならない。

また、Bule 初等学校では生徒が休みの期間中などに地域住民が勝手に洗面所を使用することがある。防止するためのフェンスなどは現段階では設置しておらず、施設の管理がより一層困難となった。

10校中8校の月経時の衛生管理クラブは定期的に衛生施設の清掃を行うようにメンバーに呼びかけている。

### 洗面所の備品

10校中8校は洗面所にナプキンを設置している。Kitagobwa 初等学校は施設が使用不可のため置いておらず、Bule 初等学校では地域住民も利用可能な状況となってしまっているため、設置はしていないが教員が緊急分を確保している。また、緊急用の制服の着替えの設置に関しても10校中6校が取り入れるようになった。

### 教員が実施したトレーニング

6月にはLwamasaka 初等学校を除くほとんどの学校で平均して3度のトレーニングを実施することができたが、学校運営委員はカリキュラムから遅れをとっていることを懸念しており、トレーニング時間がなかなか確保できていない状況にある。生徒たちは体の変化(4校)、個人の衛生(8校)、ナプキン作製の方法(6校)、偏見をなくし(7校) 女子生徒を笑わないこと(4校)、等トレーニングを通し学んだ。

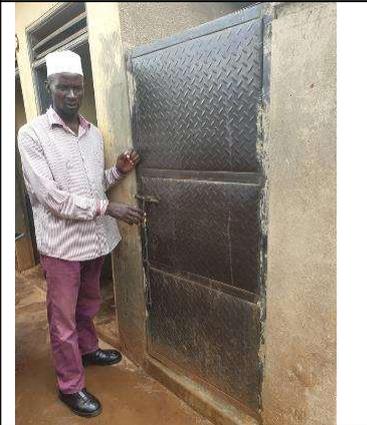
## 月経時の衛生管理クラブの活動

月経時の衛生管理クラブは全ての対象校において教員の指導・サポートを受けつつ活動が進められていた。メンバーたちは、洗面所の清掃やナプキン作製、月経中の生徒のサポート、いじめの報告など、個人が持つ役割もきちんと把握していた。

## ナプキン作製

6月是对象校10校で合計85枚のナプキンを作製した。Butende 初等学校が最も多い16枚をモニタリング時に生産し、Nawango、Kitagobwa 初等学校では1枚も生産できなかった。上記の2校はその他の学校のようにテラーなどのトレーニングを行える人員の確保ができなかったため、現在はミシンの使い方を学んでいる段階である。

		
<p>月経時の衛生管理クラブとの交流 (Butalunga 初等学校)</p>	<p>教員との議論 (Nkokoma 初等学校)</p>	<p>チームリーダーが月経時の衛生管理トレーニングを行っている (Butalunga 初等学校)</p>
		
<p>洗面所 (Butende 初等学校)</p>	<p>洗面所 (Nawango 初等学校)</p>	

		
<p>男性教員の活動を評価 (Nkokoma 初等学校)</p>	<p>教員がトレーニングのスケジュールを共有している (Bule 初等学校)</p>	<p>洗面所のモニタリング (Kiwala 初等学校)</p>
		
<p>洗面所 (Kayenje 初等学校)</p>	<p>教員たちとの交流 (Kitagobwa 初等学校)</p>	<p>モニタリング及びナプキン作製トレーニング (Ntolomwe 初等学校)</p>
		
<p>布ナプキン作製トレーニング (Ntolomwe 初等学校)</p>		

## 課題

- ナプキン作製に必要な材料の不足。教員たちは PTA 会議の際に保護者に呼びかけるよう提案している。
- 水不足が課題となっている学校は貯水用のタンクが必要である。(Bule、Kitagobwa、Ntolomwe 初等学校)
- 学校スケジュールが忙しく月経時の衛生管理トレーニングをする時間が十分確保できないこと。教員は少ない時間でも活用するように奨励している。(Iwamasaka、Nawango 初等学校)
- Kitagobwa 初等学校ではトイレの崩壊によって、隣接する洗面所も使用が不可となっていること。

- 石鹼や痛み止め、緊急用下着などの備品が不十分であること。

#### 4. Happy-Pad プロモーションセンター（ワキソ県・ブタンバラ県）

23 名の受講者がナプキン作製のトレーニングに参加し、その受講者が 66 枚のナプキンを作製した。

#### 5. 第 5 回オンライン会議の準備

7 月 22 日に「若者への性教育におけるステークホルダーの役割」を議題とした 2 時間のオンライン会議を予定しているため、パワーポイントなどの資料を準備し、Kasenyi Church of Uganda 代表、プロジェクトオフィサー、保健機関などの関係者に参加を呼び掛けた。また、オンライン会議の詳細に関するチラシを作成し、WhatsApp グループや Facebook、twitter などのデジタル媒体で共有した。

#### 事業による効果的な影響

- 学校の水準が上がったとしてラジオトークショーのリスナーは事業に感謝していた。（ムベンデ県）
- Gwanika や Jinja Karoli 初等学校など、当事業で提供したミシンに加えて、より多くの生徒が布ナプキン作製トレーニングの際にミシンを使用できるように 2 台目のミシンを調達できた学校もある。（ムベンデ県・ワキソ県）
- 対象校の生徒たちは男子、女子共に布ナプキン作製の方法を学ぶ意欲が見られた。
- 対象校の教員はミシンの使用や布ナプキン作製において熟達してきており、生徒たちを適切にトレーニングすることができている。（ムベンデ県・ワキソ県）

#### 課題

- 布ナプキン作製トレーニングにおいて材料不足が課題となっている。材料購入費を確保するため、学期毎に 1,000 シリングの寄付を保護者に呼びかけている。（ムベンデ県・ワキソ県）
- 教員の異動が多々あり、事業の活動にも影響が出ている。Kitungwa 初等学校では校長と男性教員が異動となった。新校長は来学期に赴任予定である。
- 中間試験期間中の学校や、フットボールやネットボールの大会を控えている学校もあり、月経時の衛生管理クラブの活動と両立ができず、活動に不参加となる生徒もいた。

#### 教訓

ミシンの台数を増やすことができれば、より多くの生徒がミシンを使用でき、ナプキン作製活動を円滑に進めることができる。

#### 提案

更に多くの生徒がナプキン作製の技術を身に付けられるようにミシンを追加導入するべきである。